

＜錯体化学若手の会ニュース＞ 2018年度第1号

2018年5月発行



錯体化学若手の会事務局
〒819-0395 福岡市西区元岡7-4-4
九州大学大学院理学研究院化学部門
山内 幸正

TEL: 092-802-4165; FAX: 092-802-4163

E-mail: kyamauchi@chem.kyushu-univ.jp

錯体化学若手の会ホームページ
<http://www.sakutai.jp/yccaj/>

目次

- (1) 2018年度事務局よりご挨拶
- (2) 連載：ラボと世間のはざまから（サイエンスライター佐藤健太郎）
- (3) 錯体化学若手研究会 錯体化学若手の会夏の学校2018のご案内
- (4) ICC2018におけるセッション開催
- (5) 錯体化学若手の会中国・四国支部 第3回勉強会報告
- (6) 各支部勉強会のご案内
- (7) 錯体化学若手の会 2017年度会計報告
- (8) 錯体化学若手の会 入会手続きのご案内

(1) 2018年度事務局よりご挨拶

九州大学大学院理学研究院化学部門 山内 幸正

2018年度の錯体化学若手の会事務局は、代表：山内幸正（九大院理）、会計：酒田陽子（金沢大院自然）、次年度事務局：伊藤亮孝（高知工科大院工）、並びに監事：松岡亮太（筑波大院数理解物質）の4名で担当させていただきます。錯体化学若手の会では、「夏の学校」、「シンポジウム」や「各支部の勉強会」等の様々な行事を今年も企画しています。これら若手の会主催イベントで行われる講師のご講演や自身のポスター発表等を通じて、自らの研究に対する情熱と知識を高めていってほしいと思っております。また、研究室での縦のつながりとは異なる新たな横のつながりの形成を通して、今後の研究生活や社会生活をより有意義なものにしていってほしいと思っております。

本年度は、夏の学校@琵琶湖（第3節）や支部勉強会（第6節）に加え、ICCC2018@仙台にて本若手の会主催セッション（Rising Stars in Coordination Chemistry）を開催します（第4節）。また、今年は、例年以上に充実したニュースレターをお届けします。その取り組みの一環として、有機化学美術館で著名なサイエンスライター佐藤健太郎先生に「ラボと世間のはざまから」という連載タイトルで計4回ご寄稿いただきます（第2節）。ニュースレター第2号以降は、若手の会会員限定の配信となりますので、本年度の会員継続を行っていない方は是非継続をお願いいたします（詳しくは最終頁をご覧ください）。

最後になりますが、皆さんの研究生活がより有意義なものになるよう世話人一同サポートしていきたいと思っておりますので、一年間どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 連載：ラボと世間のはざまから（サイエンスライター佐藤健太郎）

自分の研究、説明できますか？

サイエンスライターの佐藤と申します。このたび、「錯体化学若手の会ニュース」に文章を書かせていただくこととなりました。おつきあいのほど、よろしくお願いいたします。

筆者は製薬企業の研究員であった20年ほど前から、「有機化学美術館」と題するウェブサイトを作り始め、10年ほど前からは専門のライターとして本や記事を書いたりインタビューをしたり、さまざまな角度から「化学を伝える」仕事に携わっています。

「化学を伝える技術」について講演することもあります。その際学生さんからよく質問されるのが、「親や友達によく『お前は一体何の研究をしているのか』と聞かれるのだが、どう説明したらいいだろうか」というものです。これは確かに困りますね。生物学や物理学などに比べても、化学というジャンルは一体何が凄いのか、どう役に立つのか、なかなか理解してもらいづらい分野に違いありません。

しかし、専門家でない人に向けて説明し、きちんと研究内容を理解してもらうのは、とても重要なスキルです。みなさんが今後どのような道に進むにせよ、採用面接や製品のプレゼン、分野横断の共同研究や研究費の申請など、あらゆる場面でこのスキルは必要になってきます。よくコミカコミカ力といわれますが、特に理系に求められるコミュニケーション力というのは、こうした能力のことでしょう。

専門家でない人への説明にあたって、細かいコツはいろいろあるのですが、重要なのは二点だと筆者は思っています。ひとつは「説明したい事柄を、自分自身がきちんと理解すること」です。自分が理解していないことを、他人にわかりやすく伝えられるはずありません。的確な比喻を思いついたり、わかりにくいポイントをうまく言い換えて説明したりできる人は、やはりそのジャンルを一段深く理解している人です。解説の名手として知られた物理学者リチャード・ファインマンは、「“本当にわかった”と思うのは、物事に二通り以上の説明ができた時だ」という言葉を残しています。至言ですね。

もうひとつは、自分の研究を俯瞰する目を持つことです。ひとつのテーマについて深く研究していると、どうしても細かい点について考え詰めることになります。他人に説明する時には、こうした細かいポイントを語りたくなくなりますが、専門知識を持っていない相手にとってはチンプンカンプン、ということになりがちです。

理解するということは、単に知識を頭に詰め込むことではありません。新たに入ってきた知識が、それまで持っていた知識に結びつき、頭の中に場所を確保して定着することで、初めて「理解」が成立します。すなわち、「理解させる」ためには、相手が持っている知識を見通し、それに結びつける工夫が必要になります。

高分子の重合を研究している場合、同業者に対しては反応のメカニズム解析について語るべきでしょうが、生化学分野の研究者に対しては酵素反応との類似性にフォーカスして説明するほうがよいかもしれません。高校生相手なら、各種の高分子がいかに世界を大きく変えたかを解説し、自分はこれを超えるものを作ろうとしている、と語る手がありそうです。要するに、自分の研究を広い視野で捉えることが必要です。

カメラのレンズをズームから広角へ切り替えるように、相手によって話の解像度と焦点距離を的確に調整できるようになれば、怖いものなしです。そうした視点を持つことは、きっと研究にも大いにプラスに働くはずで。

佐藤健太郎：1970年生まれ。1995年東京工業大学理工学研究科博士課程（前期）修了。国内製薬企業で創薬研究に携わる傍ら、ウェブサイト「有機化学美術館」を運営し、化学の魅力を発信する。2008年、退職してフリーランスのサイエンスライターに転身。2009年～12年まで、東京大学理学系研究科化学専攻にて、広報担当特任助教。2014年より、新学術領域「 π 造形科学」広報担当。著書に「医薬品クライシス」「炭素文明論」「ふしぎな国道」など。

(3) 錯体化学若手研究会 錯体化学若手の会夏の学校 2018のご案内

大阪大学大学院基礎工学研究科 川守田 創一郎
大阪大学大学院工学研究科 森本 祐麻

錯体化学若手研究会 錯体化学若手の会夏の学校 2018 開催案内

2018年度の錯体化学若手の会夏の学校は、近畿支部が担当させていただくことになりました。琵琶湖畔アヤハレークサイドホテルにて、9月20日(木)14時~9月22日(土)の、二泊三日の日程で開催します。会場のアヤハレークサイドは琵琶湖を一望できる好立地で、温泉や大きな宴会場を完備しており、当日は夏の学校で貸し切りになります。今年も、反応から物性まで、様々な分野のトップランナーに講演をして頂く予定です。琵琶湖も沸騰するような、熱い三日間をお約束します。

【夏の学校 2018 HP】 <http://sakutaiwakate-summerschool2018.strikingly.com/>

【日時】平成30年9月20日(木)午後~9月22日(土)正午頃

【会場】琵琶湖畔 アヤハレークサイドホテル (大津市におの浜 3-2-25)

<http://www.ayaha.co.jp/lakeside/>

【参加登録費】 一般 27,000 円 学生 20,000 円

【参加申込期限】 平成30年7月10日、定員120名(google formでの申込)。

【申込方法】 以下 url の google form にアクセスし、必要情報を記入ください。

<https://docs.google.com/forms/d/1Pv9XFIYk7Yx2jwLch599Spzx3KFKAS2eeB6mYMLH1Do/edit>

【招待講演者 (順不同)】

酒井 健 先生 (九州大学)
君塚 信夫 先生 (九州大学)
寺西 利治 先生 (京都大学)
城 宜嗣 先生 (兵庫県立大学)
伊藤 肇 先生 (北海道大学)
杉野目 道紀 先生 (京都大学)

【会場へのアクセス情報】

- J R 大津駅よりタクシー利用の場合 >>> 5 分
- J R 大津駅よりバス利用の場合
湖岸道路經由石山方面行 西武百貨店前バス停下車 >>> 徒歩 3 分（京阪バスまたは近江バス）
（当日はシャトルバスもご用意します）
- J R 膳所駅または京阪膳所駅下車 >>> 徒歩 10 分
- 名神高速道路 大津 I . C より >>> 約 8 分

【問い合わせ先】

郵便番号: 560-8531 大阪府豊中市待兼山町 1-3

大阪大学基礎工学研究科 物質創成専攻 機能物質科学領域 直田研究室

川守田 創一郎

Tel: 06-6850-6222

Email: sakutai-wakate2018ss@chem.es.osaka-u.ac.jp

(4) 43rd International Conference on Coordination Chemistry (ICCC2018) におけるセッション開催

錯体化学若手の会 2018 年度事務局
金沢大学 理工研究域
酒田 陽子

今年度仙台で行われる 43rd International Conference on Coordination Chemistry (ICCC2018) において、錯体化学若手の会主催で約 35 歳以下の若手研究者を対象としたセッションを開催予定です。このセッションは、世界中の錯体化学関連の新進気鋭の若手研究者に講演をしていただき、国の壁を越えてそれぞれの研究について熱く議論し、若手研究者同士の親睦を深めることを目的としています。また、本セッションはより多くの若手研究者に発表してもらうために、他のセッションとは異なり、全て oral presentation (20 min, 質疑応答含む、2.5 日、全 50 件)となっており、詳細は (<http://www.iccc2018.jp/session36.html>) に掲載されています。

是非ご来場いただき、活発な議論をよろしくお願いいたします。

セッション名 : S36 Rising Stars in Coordination Chemistry

開催日 : 2018 年 7 月 31 日 (火) ~ 8 月 2 日 (木)

場所 : 仙台国際センター C-Meeting Room 2

オーガナイザー : 酒田 陽子 (金沢大学), 草本 哲郎 (東京大学), 吉成 信人 (大阪大学), 伊藤 亮孝 (高知工科大学), 大谷 亮 (熊本大学), Wei-Xiong ZHANG (Sun Yat-Sen University, China), Kenneth Hanson (Florida State University, USA), Dawid Pinkowicz (Jagiellonian University in Krakow, Poland), Tsai-Te Lu (National Tsing Hua University, Taiwan)

開催主旨 :

In this session, young rising stars (around 35 years old or less) in a field of coordination chemistry will highlight their cutting-edge researches. The session will cover broad areas of chemistry based on coordination chemistry. Thorough discussions and active interactions between the participants from a variety of the research fields and countries will open the door to bring new and novel ideas/insights, and future collaborations. The session will be held over 2.5 days. We hope young students and researchers participate in our session to learn frontier researches in coordination chemistry, to broaden their perspectives, and to get involved in forming young researchers' network.

セッションプログラム :

ICCC2018 Program (S36 Rising Stars in Coordination Chemistry)					
July 31, 2018 (Tue)		Aug 1, 2018 (Wen)		Aug 2, 2018 (Thu)	
8:30	Ryo Ohtani	8:30	Wei-Xiong Zhang	8:30	Wojciech Wegner
8:50	Angela Grommet	8:50	Felipe Garcia	8:50	Gabriela Handzlik
9:10	Coffee Break	9:10	Coffee Break	9:10	Coffee Break
9:40	Zhi-Hui Zhang	9:40	Rebecca Siegelman	9:40	Michal Magott
10:00	Kenichi Endo	10:00	Yu-Ting Tseng	10:00	Jun Zhang
10:20	Yoko Sakata	10:20	Miho Tanaka	10:20	Nathalie Bridonneau
10:40	Dmitry Peryshkov	10:40	Haruki Nagae	10:40	Short Break
11:00	Short Break	11:00	Short Break	10:55	Mohammad Rasel Mian
11:15	Evgeny Bulatov	11:15	Mihoko Yamada	11:15	Yuan-Yuan Tang
11:35	Mohd Rizal Razali	11:35	Satoshi Muratsugu	11:35	Peng-Fei Li
11:55	Jack Emerson-King	11:55	Caroline Storey	11:55	Tsai-Te Lu
12:15	Lunch	12:15	Lunch	12:15	Excursion
13:20	Nobuto Yoshinari	13:20	Christopher Dares		
13:40	Soichiro Akagi	13:40	Wei-Min Ching		
14:00	Coffee Break	14:00	Coffee Break		
14:25	Thammanoon Chuasaard	14:25	Kai-Ti Chu		
14:45	Masaki Yoshida	14:45	Keita Koshiba		
15:05	Tanmaya Joshi	15:05	Ulf-Peter Apfel		
15:25	Short Break	15:25	Short Break		
15:40	Takafumi Enomoto	15:40	Fu-Te Tsai		
16:00	Kseniia Karakovskaya	16:00	Chuan-Hung Chuang		
16:20	Coffee Break	16:20	Smaranda Marinescu		
16:45	Woon Ju Song	16:40	Coffee Break		
17:05	Takahiro Nakama	17:05	Pei-Qin Liao		
17:25	Short Break	17:25	Fernando Uribe-Romo		
17:35	Kogularamanan Suntharalingam	17:45	Short Break		
17:55	Justin J. Wilson	17:55	Takashi Kitao		
		18:15	Kenneth Hanson		

(5) 錯体化学若手の会中国・四国支部 第3回勉強会報告

高知工科大学 環境理工学群 伊藤亮孝
岡山大学 大学院自然科学研究科 田中翼

2018年4月28日(土)に、高知工科大学永国寺キャンパスにて錯体化学若手の会中国・四国支部 第3回勉強会を開催しました。一昨年度より中国四国地区錯体化学研究会との合同という形で開催され、3回目(中国四国地区錯体化学研究会としては第11回)となる今回は、松本健司先生(高知大学理工学部)と伊藤が世話人として、5名の先生方に下記タイトルでご講演いただきました。

プログラム(講演順)

- ・越智里香 先生(高知大学理工学部 助教)
「錯体化学および超分子化学を基盤とした機能性ポリマー材料の創製」
- ・西形孝司 先生(山口大学大学院創成科学研究科 准教授)
「銅錯体とアルキルラジカル種の反応による立体的に込み合った分子合成」
- ・大場正昭 先生(九州大学大学院理学研究院 教授)
「吸着分子による多孔性配位高分子の機能制御」
- ・灰野岳晴 先生(広島大学大学院理学研究科 教授)
「自己集合により提供される超分子カプセルの機能」
- ・伊藤亮孝(高知工科大学環境理工学群 講師)
「アリアルホウ素を利用した強発光性ルテニウム(II)ポリピリジン錯体の創出」

越智里香先生には、有機化合物や金属錯体を基とした超分子ゲルについてご講演いただきました。超分子との違いやヒドロゲルとは何かといった高分子の基礎についてのわかりやすいご説明の後、温度でコントロールされた化学反応によってゲル化を制御するユニークな熱解離性を示す系や、報告例の比較的少ない軽金属を使った配位高分子に関する成果についてご紹介いただきました。

西形孝司先生には金属錯体を利用した有機合成として、銅錯体を用いた三級 α -プロモカルボニルのバリエーション豊かな置換反応についてご紹介いただきまし



越智先生(左)と西形先生(右)のご講演の様子。

た。立体障害のため一般的には難しい四置換アルキル化反応に、安定なラジカルを生成する α -ブロモカルボニルを活かすことになった経緯やその戦略について説明いただきました。また反応開発に関する研究の進め方についても順を追ってわかりやすくお話いただきました。

大場正昭先生にはゲスト分子の吸着を鍵とする多孔性配位高分子の物性制御についてご講演いただきました。室温における孔内への水の吸脱着によって低温での磁気特性が変化するヘキサシアノ錯体を用いた系や、Hoffmann 型の多孔性配位高分子におけるゲスト分子の吸着に伴うスピントスオーバー挙動など、多孔性と磁気秩序やスピントスオーバー現象といった性質を組み合わせた成果について、詳しく紹介していただきました。なお大場先生のご講演は、新学術領域研究「配位アシンメトリ」によるご支援の元、融合基礎・実習コースとして実施いたしました。



大場先生による質疑応答の様子。

灰野岳晴先生には自己集合によってできるカプセル型の四核錯体の機能についてご紹介いただきました。その内部に存在する芳香環で囲まれた空間にゲスト分子を包摂することができる錯体のゲスト分子選択性や、キラルなゲストを用いたホスト錯体のキラリティー制御といった巧みな戦略に基づく成果に次いで、ポリマー状のゲストに対する包摂挙動についても、その詳細をご説明いただきました。



灰野先生のご講演の様子。

最後に伊藤が、アリーールホウ素型の置換基を導入したルテニウム(II)ポリピリジン錯体について紹介させていただきました。強く長寿命な発光を達成するためにトリアリーールホウ素をルテニウム(II)錯体に組み込んだ戦略を説明いたしました。どの様に大きな輻射速度定数と小さな無輻射失活速度定数を達成するかについて、光化学・光物理の基礎から式を交えつつ解説させていただきました。

当日は中四国各地より 116 名（うち学生 87 名）の方に参加いただき、過去最大規模での開催となりました。また今回は高知化学会による後援の甲斐あって、高知県内の必ずしも錯体化学を主としない研究室や企業からもたくさんの方に参加いただきました。講演者・参加者ともに多彩なバックグラウンドをもつ顔ぶれでしたが、いずれの講演でも基礎から丁寧に解説しながら研究成果をお話しいただいたため、参加した学生から理解しやすかったという声を聞くことができ、大変有意義な会となりました。

最後に、ご多忙の中ご講演いただいた先生方ならびにお世話いただいた高知大学の松本健司先生と学生の皆さん、配位アシンメトリのご支援に深く感謝いたします。

(6) 各支部勉強会のご案内

○錯体化学若手の会関東支部 前期勉強会 2018

日時： 2018年5月26日(土) 11:30-17:15 (受付：11:00 開始)

会場： 東京大学 本郷キャンパス 化学本館 5階講堂

参加費： 無料(懇親会費別), 当日受付

【勉強会プログラム】

- ・ 受付 11:00-

- ・ 中島 一成 先生 (東京大学 助教) 11:30-12:15
「鉄錯体を触媒とするホウ素化反応および含リンヘテロ環合成反応」

- ・ 五月女 宜裕 先生 (理化学研究所 研究員) 12:15-13:00
「金属中心キラリティー内包型遷移金属錯体を用いる触媒的不斉反応」

- ・ 上田 顕 先生 (東京大学 助教) 14:00-14:45
「動的水素結合を有する新しい有機伝導体の開発」

- ・ 樋口 昌芳 先生 (物質・材料研究機構 グループリーダー) 14:45-15:30
「メタロ超分子ポリマーを用いたエレクトロクロミックデバイス」

- ・ 阿部 二郎 先生 (青山学院大学 教授) 15:45-16:30
「次世代フォトクロミック材料の開発戦略」

- ・ 前田 和彦 先生 (東京工業大学 准教授) 16:30-17:15
「半導体と錯体が教えてくれた光触媒研究の面白さ」

勉強会終了後、講師の先生方を囲んだ懇親会を予定しております。

懇親会参加希望の方は研究室で人数をお取りまとめのうえ、

5月18日までに豊田良順氏(東京大学西原研究室)までご連絡ください。

toyoda@chem.s.u-tokyo.ac.jp

○第 58 回錯体化学若手の会 近畿支部勉強会

日時: 2018 年 6 月 23 日 (土)

勉強会 : 13:00~ (12:30~受付)

懇親会 : 18:00~ (予定)

場所: 関西学院大学 神戸三田キャンパス VII号館 101 教室

参加費 : 無料 (懇親会費 学生 2,000 円、一般 3,000 円)

主催 : 錯体化学若手の会 近畿支部

世話人 : 田中 大輔、鎌倉 吉伸 (関西学院大学 田中大輔研究室)

ご講演者(順不同):

人見 穰 先生 (同志社大学)

長田 裕也 先生 (京都大学 杉野目研究室)

吉川 浩史 先生 (関西学院大学)

細野 暢彦 先生 (京都大学 iCeMS 北川進グループ)

小川 歩 さん (大阪大学 林研究室)

学生によるポスター発表セッションも企画しております。

6 月 1 日 (金) 、参加申し込み締切

(当日参加も受け付けますが、円滑な運営にご協力ください。)

第 59 回錯体化学若手の会・近畿支部勉強会

主催 大久保貴志先生 (近畿大学・黒田研)

日時 11 月 10 日 (土)

詳細未定

○第 24 回錯体化学若手の会 中部・東海地区勉強会

主催 錯体化学若手の会 中部・東海地区

日時 : 2018 年 10~11 月頃を予定

会場 : 名古屋大学

世話人 : 邨次智 (名大院理)

(7) 錯体化学若手の会 2017 年度会計報告

金沢大学 理工研究域 酒田 陽子

2017 年度 会計報告および会員状況報告 (2018 年 3 月 5 日現在)

収入	前年度繰越	1,021,743
	平成 27 年度分会費 (302 名分 (学生))	302,000
	中途退会者からの会費 (1 名分 (学生))	1,000
	一般会員からの会費移算分 (117 名分)	117,000
	普通口座利子等	3
	平成 28 年度分会費 (9 名分 (学生))	9,000
	収入合計	1,450,746
支出	若手の会シンポジウム	18,000
	支部活動支援金 (北海道・東北)	40,000
	支部活動支援金 (関東)	40,000
	支部活動支援金 (中部・東海)	20,000
	支部活動支援金 (近畿)	40,000
	支部活動支援金 (中国・四国)	20,000
	支部活動支援金 (九州)	40,000
	夏の学校支援金	150,000
	会員管理アルバイト謝金	60,000
	世話人会 会議費 (2017/09 錯討)	15,385
	支出合計*1	443,385
	差引残高	1,007,361

<各支部の会員数と会費納入率 (前年度末比) (2018 年 3 月 5 日現在) >

支部名	会員数 (前年度増減)	会費納入者数	会費納入率
北海道・東北	49 (+17)	49	100 %
関東	136 (+4)	136	100 %
北陸	12 (+2)	12	100 %
中部・東海	45 (+0)	45	100 %
近畿	102 (-12)	102	100 %
中国・四国	17 (+3)	17	100 %
九州・沖縄	57 (-11)	57	100 %
不明・海外	1 (+0)	1	100 %
全国	419 (+3)	419	100 %

学生会員数 (会費納入者) : 302 名、 一般会員数 : 117 名

(8) 錯体化学若手の会 入会手続きのご案内

学生の方（新規・更新とも）

- ① <http://sakutai.jp/yccaj/join.htm> から「会員登録フォーム」をクリック
- ② フォームにて必要事項を記入する。
- ③ 年会費 1000 円を以下の口座に払い込む(郵便局振替口座)

口座名義：錯体化学若手の会

口座番号：02200-6-107172

【郵便局以外からの振込みの場合】

店名：二二九 口座番号：当座 0107172

※研究室でまとめて払い込みを行う場合、払込書に入会者全員の氏名を記入してください。

- ④ 事務局で入金を確認次第、ID・パスワードが発行され、会員登録の完了となります。

注：学生会員の場合、自動更新ではないため、更新の場合も年次ごとに登録が必要となります。

学生以外（大学教員・研究者など）の方（新規）

錯体化学若手の会事務局（sakutai.wakate@gmail.com）にご連絡ください。

学生以外（大学教員・研究者など）の方（更新）

特に手続きは必要ありません。退会しない限り、自動更新となります。なお年齢制限により 40 歳になると自動的に退会となります。

登録に際して集めた情報のうち、本人の同意がある情報に関しては錯体化学若手の会及び錯体化学会の会員名簿冊子に記載されます。平成 17 年 4 月より「個人情報保護法」が施行になりましたので、以上をご理解いただき会員登録の際に名簿への記載に関して同意いただけるかどうかを必ず明記いただけるようお願い申し上げます。詳細は HP を参照するか下記事務局までお問い合わせください。

「錯体化学若手の会」とは？

本会は、錯体化学会の支部として錯体化学に関連した分野で研究を行っている若手の研究者（大学・企業・研究所の研究者）及び大学生・大学院生の交流・情報収集を通して、自らの研究に対する情熱と知識を高め、エンカレッジする会です（2017 年度若手の会会員数 419 名）。錯体化学に関心のある方なら、学生・スタッフ・企業人・大学関係者等、資格は問いません。会の活動と会員特典を以下に示します。

- ・錯体化学討論会への学生参加登録資格
- ・錯体化学討論会におけるポスター賞の応募資格
- ・錯体化学夏の学校の開催（会員割引あり）
- ・支部単位の勉強会開催
- ・錯体化学若手の会ニュース（年 4 回）の配布
- ・若手の会会員名簿の閲覧（名簿記載者のみ）
- ・錯体化学会会員名簿の閲覧（名簿記載者のみ）
- ・錯体化学会誌（BJSCC）の配布（電子版）
- ・錯体化学会のメーリングリストによる全国の錯体化学会員への情報発信

錯体化学若手の会事務局

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 7 4 4

九州大学大学院理学研究院化学部門

山内 幸正（代表）

TEL: 092-802-4165

E-mail: kyamauchi@chem.kyushu-univ.jp

〒920-1192 石川県金沢市角間町

金沢大学理工研究域物質化学系

酒田 陽子（会計会員）

TEL: 076-264-5972

E-mail: sakata@se.kanazawa-u.ac.jp

若手の会ニュース・メールニュース・Web ページへの
記事掲載は事務局（sakutai.wakate@gmail.com または
kyamauchi@chem.kyushu-univ.jp）にご連絡ください。

錯体化学若手の会ホームページ

<http://www.sakutai.jp/yccaj/>